



【東部振興局管内】

しいたけ普及指導情報 第23号

[ほだ化初期管理号]

蒸し暑い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしですか。

1 単収向上

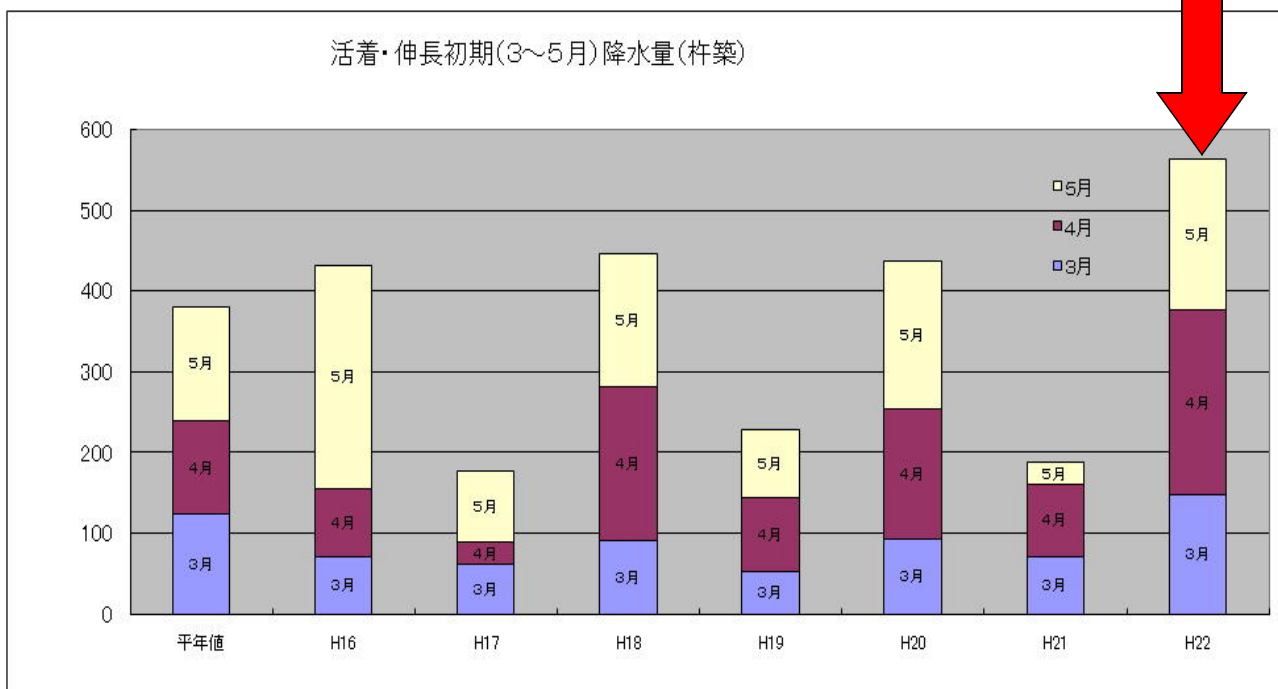
1) 春子の作柄について

きのこグループ（旧きのこ研究所）において継続的に実施している、基準品種の栽培試験の結果によると、中温性品種で対平年値7割、低中温性では6割、低温性では5割（5月末日時点）と低温性を中心に非常に厳しい結果となっております。

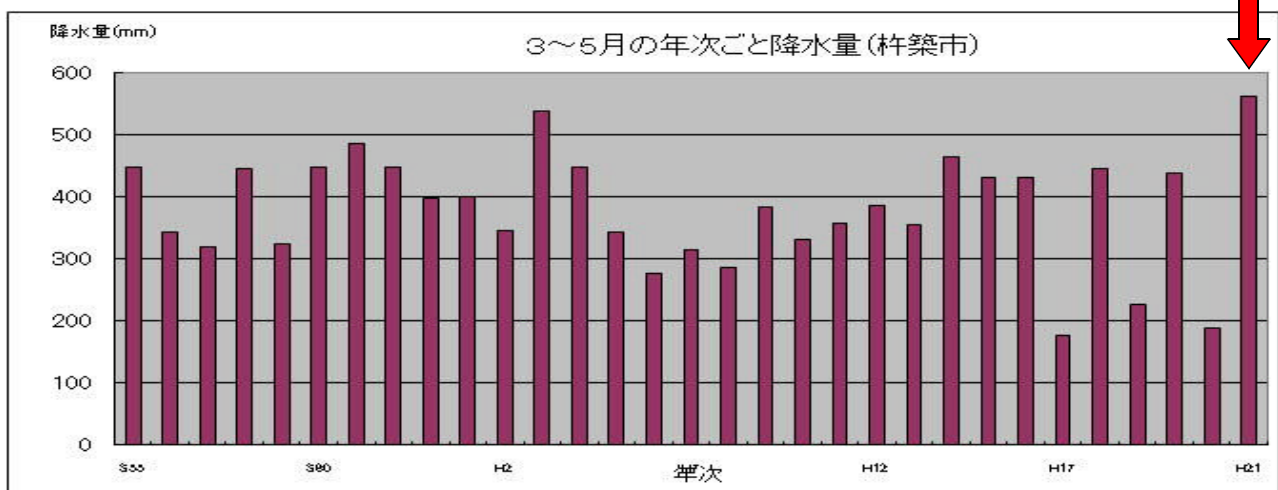
今期の発生状況から見ると、比較的中温性品種には落ち込みは無いように感じられました。単収の安定には中温性品種の利活用が有効だと考えられます。

2) ほだ化時の水分管理

今年の3、4、5月の月毎降水状況は下図のとおりです。

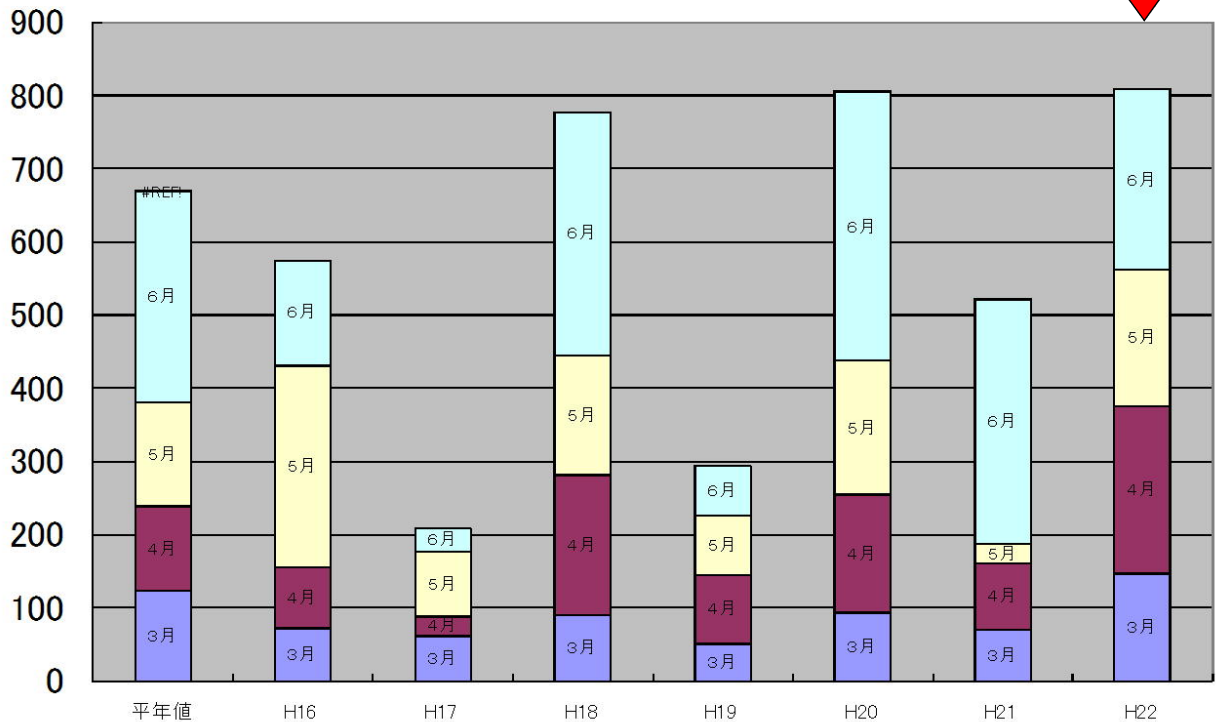


活着初期にあたる3~5月の降雨は、平成17、19、21年には極端な少雨となっております。隔年で大きな違いが出ています。



過去30年で見ても、近年は著しく変動が大きいことがわかれると思います。今年も順調であり過去30年で見ると最も降雨が多かったことがわかります。

活着・伸長初期～中期～(3～6月)降水量(杵築)



6月までの降雨でも順調な降雨がありました。
 これにより、ほぼ順調な初期活着をしていると思われます。
 ちなみに6月中旬に見させていただいたところでは、概ね順調のようです。



【6月17日 杵築】



【6月17日 山香】



ちなみに、林内伏せでは、湿度が高いためか、ゴムタケが多発しているものも見られました。また、しいたけ菌糸が条溝部に出てきているものも見られました。
 【6月30日 杵築】

気温の上昇とともに害菌の侵入、繁殖も旺盛な時期に入ります。今後は、適正な通風や庇陰調整を行うとともに、定期的にはほだ木の菌糸伸長状況を観察しましょう。

特に今年は雨が多いため、高温多湿によるトリコデルマ等の発生も危惧されます。伏

込地（2年目分も含め）を見回り、しっかりと通風管理を行ってください。

（笠木の点検・補充）

梅雨明けと同時に気温は急上昇します。この時期ほど木が直射日光を受けると樹皮表面温度は45℃前後まで上がり、樹皮下温度も40℃程度あると予想されます。シイタケ菌糸は40℃（湿熱）で30～60分で死滅します。**笠木の点検を行い薄い部分は必ず補充すること。**

被陰材（ダイオネット等）を使用している場合は、被陰材とほだ木の間がかなりの高温となり、高温障害を受けやすくなるので、間に笠木等を入れて隙間を作り、被陰材とほだ木が接触しないようにすること。

また、全面をダイオネット等で覆っている場合は通風を良くするため、側面を開放すること。

（下刈りによる通風管理）

◆降雨が多い場合

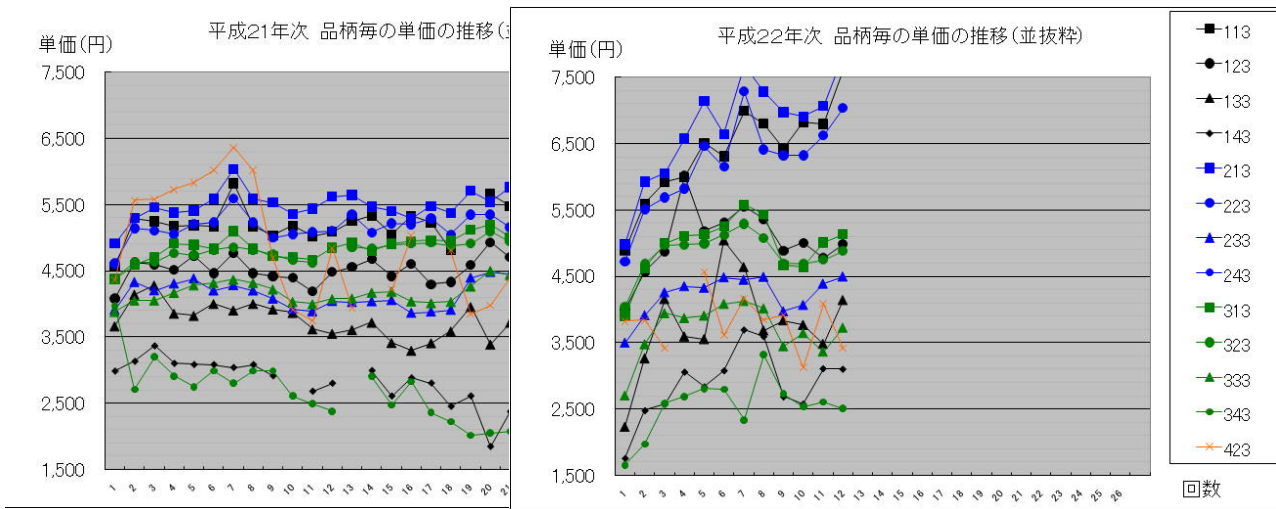
伏せ込み周辺を広く刈る（梅雨前1回、梅雨明け後2回以上）

◆降雨が少ない場合

伏せ込み周辺を比較的狭く刈る。伏せ込み下の草を残し周囲を刈る。

2 単価向上

今年の単価は昨年に比べ単価の開きが出ています。



また、上物と下物の差も大きいようですので、選別が特に重要だと思われます。

3 生産量の拡大（維持）

（1）新規参入者について

今年も新規参入者向け研修を実施します。ご近所にしいたけ栽培を始めそうな人、初めて間もない方がいらっしゃればご紹介願います。（申込期限7月31日必着）

大分しいたけ源兵衛塾の5期（今年と来年の2年間）が始まりました。管内からは5名参加することになりました。

対象	研修名	内容
全くの初心者	しいたけ新規参入者研修 （栽培基礎研修）	4日 基礎的な講義と実習
本格的な就業を考えている方	しいたけ新規参入者研修 （生産現場通型研修）	12日 実際の生産者の元で研修を受ける（伐採・玉切・駒打・伏込・収穫・乾燥等）
1t程度の生産を目指す方！！	大分しいたけ源兵衛塾 （地域の中核的リーダーを養成）	10日 先進地視察・座学・事例紹介等（2年間）

”” お知らせ””

7月27日にOSK 国東婦人部が国東高校の家庭クラブを対象に椎茸料理教室を行います。

大分県東部振興局農山漁村振興部 林業・木材・椎茸班
 担当 坂本（国東市エリア）河野（別府市杵築市日出町エリア）
 TEL 0978-72-0156 fax0978-72-3697